



F181122JWF152(5232x3928)  
 JWF156 KUM91-1 (P)  
 ①「中学や高校の部活などの選  
 手の健康問題をどう拾い上げる  
 かが課題」と話す能瀬さやか医  
 師

JWF152 KUM9... 63行  
 「健康」(写真1)  
 ◎養護教諭集め「運動性無月経」シンポ  
 〓中高生啓発、女性アスリート健康支援委〓

スポーツをしている女性は平均12歳くらい。以後に生じる「運動性無月経」は平均28日間周期で3ヶ月以上続くと、学校の養護教諭や7日の月経期間を繰り返す部活指導者らに対策を講ずるが、3カ月以上ない場  
 じてもらうため、日本産科婦人科学会や日本スポーツ協会などでつくる「女性アスリート健康支援委員会」(川原貴会長)がシンポジウムを12月に東京で開催する。

女性が無月経を迎える時、骨粗しょう症になりやすい。能瀬さやか医師は「一部活の選手や市民ランナーも受診しており、競技レベルとは無関係。中高生の選手にも婦人科の受診を促してほしい」と話す。

シンポ「思春期の運動性無月経を考える」は12月22日午後1時30分から東大医学部教育研究棟で。女子マラソンの高橋尚子さんを指導した大阪学院大の山内武教授が講演

。ヨコ・ゼッターランド日本スポーツ協会常務理事を座長に、百枝幹雄、聖路加国際病院副院長、小清水孝子大妻女子大教授、西園マリア文・白梅学園大教授が婦人科、栄養学、精神医学の知見を紹介し討論する。参加申し込みは女性アスリート健康支援委員会のホームページから。参加費3000円。問い合わせ先は同委員会事務局(03(6804)7739)。(了)

【編注】  
 能瀬(のせ)、百枝幹雄(ももえだ・みきお)、小清水孝子(こしみず・たかこ)、西園(にしぞの)マリア文(あや)